

心豊かな暮らしと社会のために 暮らしの視点から 移動と移動手段を考える

自己紹介



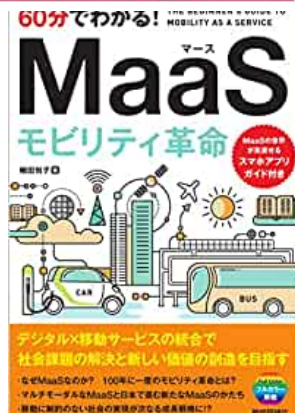
- スイス留学・カンボジアNGOなど
- クルマ離れした若者の声を聞きたいと採用される
旅客・貨物・販売・整備・メーカー・運輸局・
自治体などを取材する(株)自動車新聞社 記者（本社は神戸）
- 分野横断的に取り上げるモビリティ情報誌「LIGARE」創刊編集長
- 国土交通省「自転車活用推進に向けた有識者会議」委員
- 名古屋市交通問題調査会 委員
- 国土交通省 交通政策審議会交通体系分科会第15回地域公共交通部会
臨時委員
- 国土交通省 MaaS 関連データ検討会 委員
- スタートアップVC DIMENSION 元編集長
- MBA取得（英語）
- 民間企業のコンサルティング、地方公共団体などの検討会委員



モビリティジャーナリスト 楠田悦子

E-mail info@leben-kurashi.com

兄弟本 移動貧困社会からの脱却 ～免許返納問題で生まれる新たなモビリティマーケット～



地域の稼ぐ力を高める

2 次交通の教科書

2/10発売予定

Amazon
三省堂書店
楽天ブックス

オンデマンド
電子書籍

楠田悦子 著

やまところ
BOOKS

社会課題と移動全体を考えるため 2013年独立 移動手段とサービスの多様化高度化

個々人に着目した
心豊かな暮らし



社会の課題解決にどのようにまちを再構築し

都市
道路

福祉・医療

子育て

住宅

産業
物流

観光

etc..

どのように移動手段を活用するか

歩く
歩行補助

自転車
PMV

自動車
四輪・二輪

バス
タクシー

鉄道

飛行機
船

田舎育ち

- 習い事の送迎が大変
- 通学路が危険
- 隣町までの通学が大変
- クルマ依存で公共交通はほとんどない
- 免許返納後の暮らしどうする？
- 障害者お出かけしにくい

欧州の暮らし

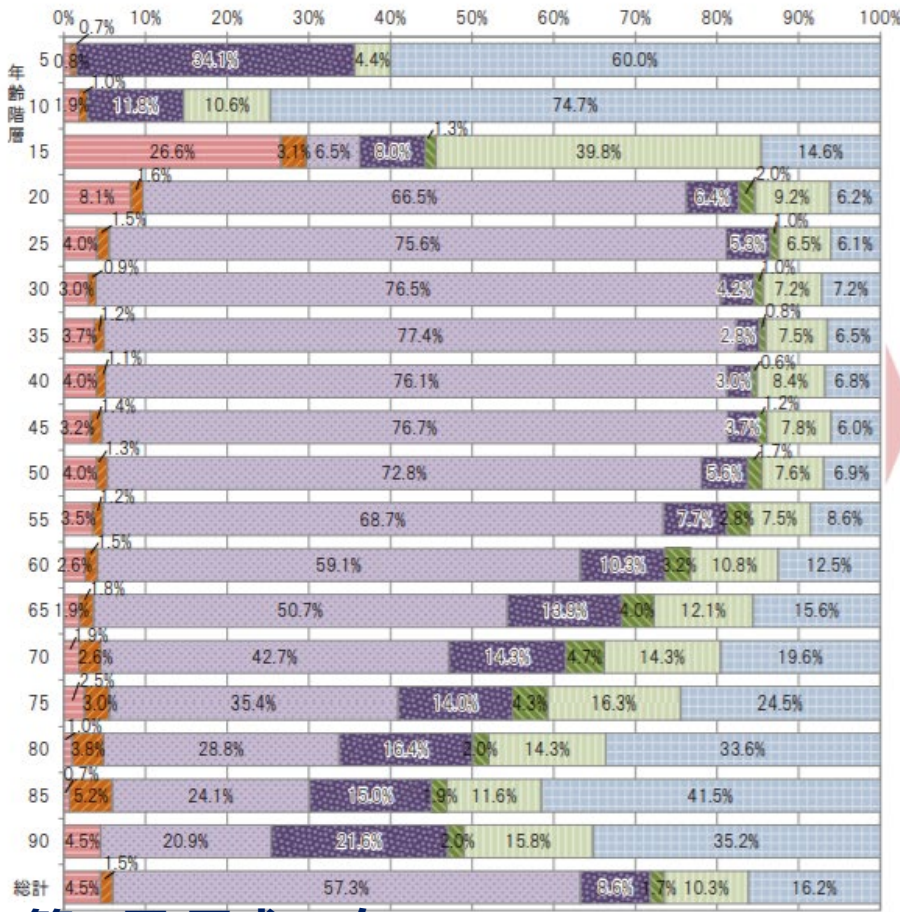
- 環境意識が高い
- 健常者と障害者の分けない
- 移動手段をシェアする文化
- 道路のインフラが日本と違う



**私たちは、声を聞けているか？
潜在的な生活者ニーズを汲めていないのではないか
高齢者事故からモビリティを考える会**

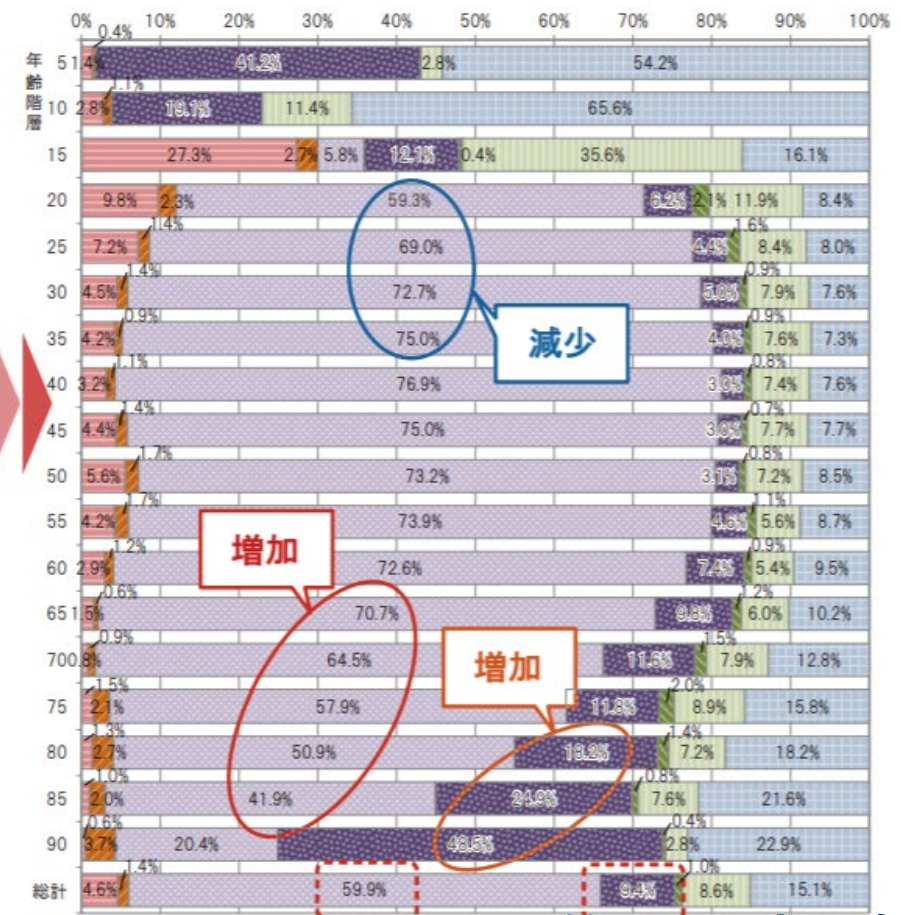


クルマだけに頼った暮らし 急激に増えた家族タクシー 移動貧困が生活の貧困を招く



第2回 平成16年
(2004)

鉄道 バス 自動車 自動車(送迎) オートバイ・バイク 自転車 徒歩

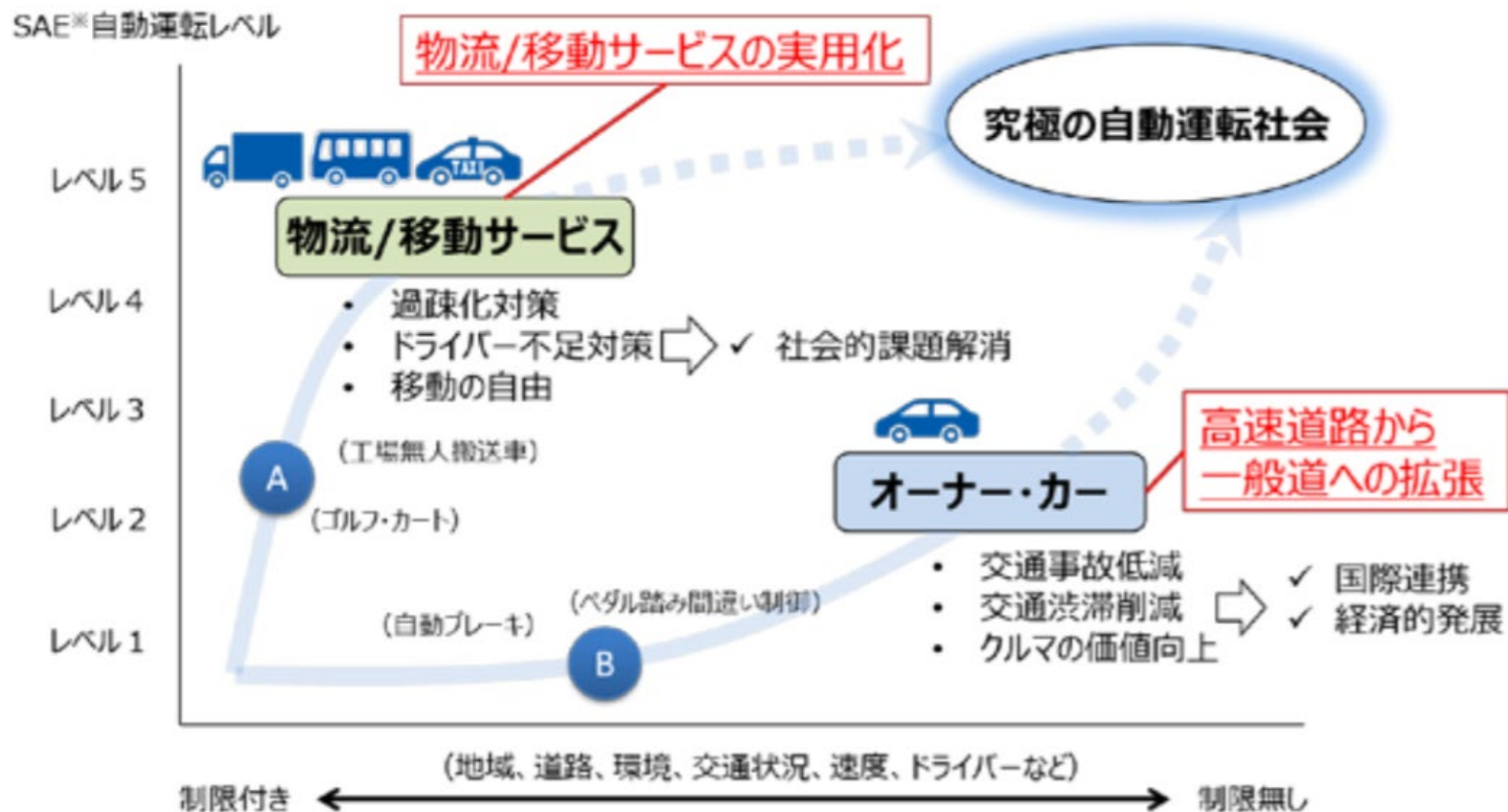


第3回 平成28年
(2016)

図 年齢階層別の代表交通手段 (左図：第2回、右図：第3回)

自動運転の現状

私たちが生きている間に1人一台の時代はこない



※SAE (Society of Automotive Engineers) : 米国の標準化団体

免許返納問題はこれから深刻化する

▶第1-88図 男女別運転免許保有者数と年齢層別保有者率（平成30年末）



- 注 1 警察庁資料による。
 2 人口統計は、総務省統計資料「人口推計」（平成30年10月1日現在）による。
 3 人口は百の位で四捨五入しているため、合計の数字と内訳が一致しない場合がある。

出典：内閣府のホームページ「平成30年度 交通事故の状況及び交通安全施策の現況」

移動貧困社会とは



テクノロジーが進歩しているように見えるが

移動の選択肢が少ない

高齢者、障害者、子育て層が安心して外出できない

QOL低下

家族が面倒を見ないといけない

生活まで貧困になる

医療・福祉費の増大

自治体財政破綻、地域経済の地盤沈下



安心して歳をとれない
子育てできない
免許返納、障害を持つと
社会人じゃなくなる？

SDGs 日本も未だ途上国ではないか？

ゆるやかな免許返納、スキルの見直しの仕組み

教習所、自動車・自転車販売店などと作れないか

一生涯移動に困らない暮らしづくり

公共交通、パーソナルモビリティ、徒歩
での暮らし

ドライバー卒業



スキルを見直す
クルマ＋もう一つ移動手段を持つ

よきドライバーでいる
ドライバーになる

ドライバーになる仕組みはしっかりしてる ドライバー卒業サポートがない

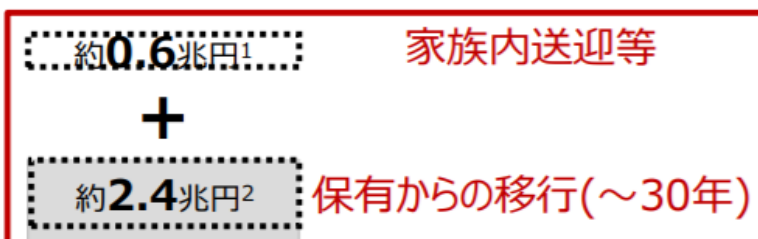
例えば：免許返納一括請負
+ 返納後のライフサポートサービス

- 運転スキルの見直し
- 身体能力測定
- 免許返納時期と
新たな暮らしの計画を一緒に考える
- クルマ以外の移動手段をピックアップ
乗り方サポートもセット
- 数年ごとに、移動手段を見直し



免許返納でできる 約3兆円の新たなマーケット

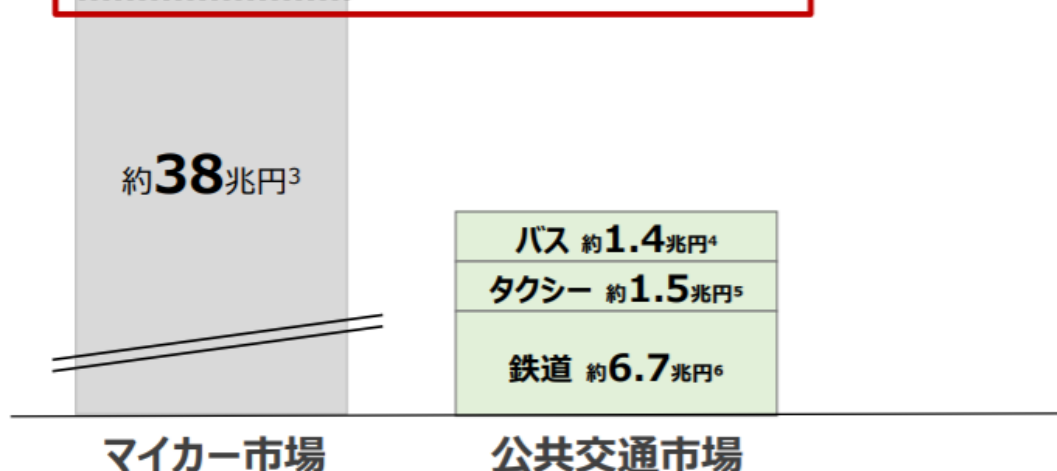
移動課題解決による市場創出



自治体・地域の運送事業者と
共に、受け皿の構築が必要

潜在的市場規模

約3兆円



¹ 2030年の子どもの通学送迎・高齢移動弱者の買い物送迎市場の最大ポテンシャル。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計(平成29年推計)」、国土交通省「全国都市交通特性調査」、中央大学大学院戦略経営研究科教授 佐藤博樹「高齢者の生活圏と移動手段」、東京産業労働局 H23「高齢者の購買動向に関する調査報告書」等を基にMonet分析 ² 2019～2030年の人口減少以外の要因によるマイカー保有台数減少分の保有コスト合計。³ 財自動車検査登録情報協会「自動車保有台数の推移」、総務省「全国統一価格品目の価格【2019年10月】」、JA共済「自動車の年間維持費はどれくらい？車種別にまとめてみた」、内閣府『平成29年交通安全白書』等を基にMonet分析、⁴ 国土交通省「平成29年度の一般乗合バス事業（保有車両30両以上）の収支状況について」等よりMonet分析、⁵ H29年度のタクシー営業収入。元は国土交通省自動車局旅客課担当者へのヒアリング等によりMonet分析、⁶ 国土交通省「鉄道統計年報【平成28年度】」等によりMonet分析

3つのタイプの手段を増やす



**誰かに送ってもらう
タイプ**

**鉄道、バス、タクシー、
助け合いなど**

**自分で移動する
タイプ**

**小型モビリティ、自転車、
車いすなど**

**動かない
タイプ**

**電話、オンライン手続き、
出張、宅配など**

ぐるっとタクシー（ドアツードア乗合タクシー）

ページID：774488364 更新日：2023年6月15日



こちらのステッカーを車体に貼付したタクシー車両が運行します。

A I（人工知能）を活用した自動配車乗合タクシー

自宅から目的地まで、また、目的地から目的地までの間をドアツードアで移動できる公共交通です。乗車予約に対して、A Iが自動で配車・最適な乗合や運行経路を計算します。

予約方法（予約受付時間）

電話での予約：コールセンター（[050-5840-4117](tel:050-5840-4117)）にご希望の目的地、乗車時間等をお伝えください。（利用前日の正午から午後2時30分まで、及び利用当日の午前8時00分から午後2時30分まで）

ケーブルテレビでの予約：ケーブルテレビの画面から、リモコンの操作で予約してください。（利用前日の午後3時から利用当日の午後2時30分まで）なお、ケーブルテレビでの予約には専用の機器の設置等が必要です。詳しくは企画政策課（[0265-78-4111](tel:0265-78-4111)）にお問合せください。

ウェブでの予約：下記のウェブサイトで登録者番号とパスワードを入力してログインし、予約してください。（利用前日の午前0時から利用当日の午後2時30分まで）（注記）利用前日は、直前の運行日を指します。

■ https://passenger.savs.miraishare.com/ina/#/_（外部サイト）

（注記）ウェブ予約をする際に使用するブラウザは、グーグルクロームを使用してください。

運賃

1人1回500円

運賃の割引

以下の方は、運賃割引の対象となります。それぞれ必要な書類をご提出ください。

- ・運転免許を返納した方・・・「運転経歴証明書」または「申請による運転免許の取消通知書」のコピーをご提出ください。
- ・運転免許証を保有したことのない75歳以上の方、過去に運転免許証を保持していたが、現在は運転免許証や運転経歴証明書をお持ちでない方・・・「宣誓書」（上記参照）をご提出ください。
- ・障害者手帳をお持ちの方・・・障害者手帳のコピーをご提出ください。
- ・特定医療費（指定難病）受給者証をお持ちの方・・・特定医療費（指定難病）受給者証のコピーをご提出ください。

ぐるっとタクシー 市街地デジタルタクシー		登録用紙（該当を○で囲んでください）		
事前登録（窓口持参又は郵送でお申込みください。） ※申込先：〒396-8617 伊那市下新田3050番地 伊那市企画政策課 ※割引を希望されない場合には、電話でのお申込みも可能です。 0265-78-4111(内線2141) 平日8:30～17:15				
記入年月日		年	月	日
登録用紙1枚で、同一世帯お二人まで記入できます。太枠の中に記入をお願いします。				
住所	〒 伊那市	自宅固定 電話番号	-	
登録情報 お一人目	ふりがな 氏 名	生年月日	携帯電話番号	スマホ
		T S 年 月 日	-	有・無
		H		

どこに住む、誰が、どの経路で、どこへ行くのか
(個人情報の問題もあるが) 把握する

個々人に着目した
心豊かな暮らし



社会の課題解決にどのようにまちを再構築し

都市
道路

福祉・医療

子育て

住宅

産業
物流

観光

etc..

どのように移動手段を活用するか

歩く
歩行補助

自転車
PMV

自動車
四輪・二輪

バス
タクシー

鉄道

飛行機
船

利用者の生活の流れで捉える

例：高齢者の通院・買い物

※利用促進を促すヒントはたくさんある
病院の予約とセット、買い物の習慣を捉えるなど

